

## 社会科学習指導案

呉市立昭和北中学校

学年 第2学年

単元名 欧米の進出と日本の開国 ～なぜ、ペリーは日本へ来航し、日本を開国させたのか～

### 1 単元について

#### 【単元観】

本単元は、中学校学習指導要領〔歴史的分野〕の内容項目C(1)「近代の日本と世界」A領域における「(ア) 欧米諸国における産業革命や市民革命, アジア諸国の動きなどを基に, 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解すること。」に基づき設定している。

本単元は、17世紀から18世紀の欧米諸国における近代社会の成立や産業革命の進展, アジアへの進出を扱う単元である。そのため本単元は「欧米諸国における近代社会の成立」、「工業化による社会の変化」、「欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容」という3つの観点で捉えることができる。「欧米諸国における近代社会の成立」という観点では、フランス革命などの市民革命によって、絶対王政に代表される「王の支配」から、法に基づき、議会において国家を運営するという「人の国家」へと変化したことを扱う。「工業化による社会の変化」という観点では、イギリスに代表される産業革命によって資本主義社会が成立し、労働問題・社会問題が発生したことを扱う。そして「欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容」という観点では、産業革命の進展に伴って、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めて中国やインドなどのアジアへ進出したことや、それに対する中国の動きなどを扱う。この3つの観点が深く関わり合い、繋がっていったことを気付かせ、本単元で求められている「欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する」ことを達成したい。

#### 【生徒観】

本学級の生徒は社会科好きが多く、授業の発表においても積極的である。また、資料の読み取りや自分の考えを形成することなどにも長けている。

本学級の生徒にアンケート調査を行った結果、「世界の歴史を学ぶことの意義を見いだすことができていない」と答えた生徒は21%であった。また、何かしらの意義を見いだしている生徒も「外国のことも知れたら楽しいと思うから」という理由が多く、世界の歴史が日本の歴史に影響を与えていることや深く関わっていていることに言及するものが少なかった。

我が国は現在でも世界の様々な国から影響を受けており、それは世界の様々な国で起こっている社会の変化などの内政事情を背景としている。本学級の生徒は、外国から受けている影響をその外国の内政事情や社会の変化などの背景と結び付けて考える力が弱いといえる。



### 【指導観】

世界の歴史の背景を基に我が国の歴史を捉え、表現することができるように、本単元の1時間目の学習で単元を貫く問い「なぜ、ペリーは日本へ来航し、日本を開国させたのか。」を設定する。この問いを毎時間意識させることによって「ペリーが来航した」という事象の背景を考えさせる手立てとしたい。また、単元を貫く問いを意識させる方策として、次の4点に工夫・配慮していきたい。

- ①「単元授業設計シート」を作成し、1時間目の学習で単元を貫く問い及び、単元の授業の流れを生徒と共に作成し見通しをもたせる。
- ②毎時間授業のまとめに、本時の学習が単元を貫く問いにどのように関わり、結び付いていくのかを考えさせ、単元授業設計シートに記入させる。
- ③単元で使う毎時間のワークシートに単元を貫く問いを目立つように記入し、意識付けをする。
- ④毎時間、振り返りシートに本時のまとめを書かせ、教員がチェックすることにより、理解度を確かめるとともに、表現力を鍛える。

## 2 単元の目標

○ペリーが日本へ来航し、日本を開国させた理由を考えることを通して、資料を用いながら、その推移や背景、社会の変化に着目して考察し、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。

### 単元の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国などの動きを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。	工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	近代の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
中学校区で育成を目指す 資質・能力	知識・技能	コミュニケーション力	自らへの自信

### 3 単元の計画（全6時間）

時	学習内容	評価規準	評価方法
1	単元を貫く問い「なぜ、ペリーは日本へ来航し、日本を開国させたのか」		
	過去に学習した単元「ザビエルはなぜ日本へやってきたのか」を基に、当時の欧米諸国の現状や欧米が日本などのアジアに進出した要因を考え、今後の学習の見通しを立てる。	【主体的に学習に取り組む態度】 ペリーが日本へやってきた要因について予想をし、これからの学習に見通しがもっている。	単元授業設計シート
2	本時のめあて「アメリカはどのように独立をしたのか説明できる。」		
	チャールズ1世とクロムウェルの政治を基に、専制政治に陥らない方法を考察し、ワークシートに記入する。イギリスの政治の発展からアメリカ独立までの流れをワークシートに記入する。	【思考・判断・表現】 アメリカが独立した要因や歴史の推移をイギリスの市民革命や啓蒙思想と関連付けて表現している。	単元授業設計シート ワークシート
3	本時のめあて「欧米の政治がどのように変化したのか説明できる。」		
	教科書の記述を活用し、本時の課題について話し合い、その結果を発表する。	【思考・判断・表現】 前時で学んだイギリス革命やアメリカ独立戦争、本時で学ぶフランス革命を基に、ヨーロッパの政治が国王が主役の「人の支配」から国民が主役の「法の支配」へと変化したことに気づき、表現している。	単元授業設計シート ワークシート
4 本時	本時のめあて「産業革命は社会にどのような影響を与えたのか説明できる。」		
	産業革命の流れを考察し、資料を基に産業革命の進展が社会にどのような影響を与えたのか考え、現代に残る資本主義経済の問題点は何か考察する。	【思考・判断・表現】 イギリス産業革命が、社会にどのような影響を与えたのかについて資料を基に考察し、現在の社会との関連を表現している。	単元授業設計シート ワークシート
5	本時のめあて「なぜアメリカは発展することができたのか理解できる。」		
	アメリカの太平洋沿岸までの領土拡大の道のりや、南北戦争での対	【知識・技能】 資料から本時の課題に関わる情報を	単元授業設計シート ワークシート

	立を示す資料を活用し、本時の課題について考察し、ワークシートに記入する。	適切に読み取っている。 リンカーンは奴隷を開放した英雄のようにとらえられているが、実は南北の経済的な利権の対立から奴隷を開放しているという側面もあるということについて理解している。	
6	本時のめあて「欧米諸国はアジアをどのように侵略していったのか説明できる。」		
	イギリスの清やインドへの侵略を示す資料を活用し、本時の課題について考察し、ワークシートに記入する。	【思考・判断・表現】 近代国家を成立させた欧米諸国のアジアへの進出の過程を、既習事項である産業革命による市場獲得の動きと資料を関連付けて、表現している。	単元授業設計シート ワークシート

#### 4 本時の目標

- イギリス産業革命が社会にどのような影響を与えたのかを考察し、その影響が資本主義経済の成立により発生したことに気付き、利益追求のための市場拡大が欧米を植民地獲得のための海外進出への道に進ませたことを理解する。

#### 5 本時の学習展開（4時間目／全6時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
<b>1 単元を貫く問いの確認</b> ○単元を貫く問いと本時の学習の関わりをもつ。	○単元授業設計シートを活用し、本時は欧米の経済的な発展について学習することを確認させる。	
単元を貫く問い「なぜ、ペリーは日本へ来航し、日本を開国させたのか」		
<b>2 本時の学習課題の確認(10分)</b> What 産業革命とは何か?		
機械の発明によって、大量生産・大量輸送が可能になり、社会が大きく変化したこと。	○「産業革命」という言葉から、イギリスにどのようなことが起こったのか予測させる。	
○何の産業(工業)の製品が多く作れるようになったことがきっかけで産業革命が起きたのか予測する。 ○当時の貴族の絵、綿布の入手の仕方を見る。 ○産業革命がどのようにして起こ	○産業革命の定義を押さえる。 ○布から産業革命が起きたことに疑問をもつ生徒が多いと予測される。当時の貴族の服装や木綿をインドから大量に輸入していたことなどから、人々の生活を木綿が大きく変え、その木綿が大量生産されることは、経	

<p>ったのか疑問をもつ。</p>	<p>済に大きな意味をもつということ を捉えさせる。</p>	
<p>めあて「産業革命が社会にどのような影響を与えたのか説明できる。」</p>		
<p><b>3 推移を考察する(10分)</b></p>		
<p>How どのように産業革命が起こったのか?</p>		
<p>○A～Gの並び替えに取り組み、どのように産業革命が進展したのか考察する。</p> <p>A: 蒸気機関を織機や紡績に活用 (綿布の大量生産が可能に)</p> <p>B: 欧米にも産業革命が広がり、目覚ましい経済成長を遂げる。</p> <p>C: 水力を活用した紡績機の発明 (糸を紡ぐ速度が600倍に)</p> <p>D: 綿織物が大量に生産されるようになり、イギリスが大きく発展し、「世界の工場」と呼ばれる。</p> <p>E: ワットが蒸気機関を改良 (石炭を利用した新たな動力が生まれる「技術革新」)</p> <p>F: 蒸気機関が機関車や船に活用 (製品の大量輸送が可能に)</p> <p>G: ジョン・ケイが飛び杼を発明 (綿布を織る速度が従来の2倍に)</p> <p>欧米で <input type="text"/> が問題になる</p>	<p>○蒸気機関や飛び杼の映像をみせる。</p> <p>○それぞれの事象の因果関係を考えさせる。</p> <p>手工業による綿工業 (インドからの輸入が大半を占める)</p> <p>→国内で綿布の大量生産がしたい</p> <p>G: 綿糸が足りなくなる</p> <p>C: 綿糸が余ってしまう</p> <p>E: 蒸気機関を何かに使えないか</p> <p>A: 動力を生産に使う</p> <p>F: 動力を輸送に使う</p> <p>D: 大量輸送、大量生産により、イギリスの経済が大きく発展</p> <p>B: 他の国でも産業革命が広がっていく</p>	
<p><b>4 社会に与えた影響を考察する(20分)</b></p> <p>○□に入る言葉を、資料を基に考える。 (個人思考: 5分)</p> <p>資料①イギリスの都市の様子</p>	<p>○□に入る言葉を考えさせることで、産業革命が社会にどのような影響を与えたのか考えさせる。</p> <p>※本時の主活動</p> <p>○資料から読み取った情報を書くだけにならないよう、読み取った事象が産業革命の進展にどのような影響を与えているかを考えさせる。</p>	<p>○イギリス産業革命が、社会にどのような影響を与えたのか資料を基に考察し、</p>

<p>資料②過去 2000 年間の世界GDP 資料③資本家（社長）と労働者 資料④イギリスのある繊維工場</p> <p>○グループで交流し、できるだけ多くの変化をあげる。 〈期待する生徒の考え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格差が生まれる（資本家と労働者）</li> <li>・製品を売るための市場が足りなくなり、海外へ市場を求める。</li> <li>・材料を海外へ求める →海外の植民地支配へ</li> <li>・利潤追求のために長時間労働や児童労働が発生する。</li> <li>・地球環境問題や公害の発生</li> <li>・競争により、新しいものが生まれ、人々の暮らしがもっと豊かになる。</li> </ul> <p>○これらの問題や変化がなぜ生まれるのか、本質を考える。 〈期待する生徒の考え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ儲けようとする資本家の野心</li> <li>・資本家同士の儲けを追究する戦い</li> </ul> <p><b>5 現代へのつながり(自分事へ) (5分)</b></p> <p>○イギリス産業革命で成立した資本主義経済の問題点が現代でも残っているか考える。</p>	<p>○押さえておきたい事象の2が生徒に気づきにくいと予測される。生徒が気付かなければ、ジョン・ケイの飛び杼の発明から糸が足りなくなったという、材料の不足や消費者の不足から、欧米が植民地拡大をねらったということに気付かせる。 〈必ず押さえておきたい事象〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 資本家と労働者などの格差を生む。</li> <li>2 市場拡大のための植民地獲得。</li> <li>3 長時間労働。</li> <li>4 公害(地球環境問題)の発生。</li> <li>5 経済が急成長をするように</li> </ol> <p>○これらの問題や変化が資本家の「自由な競争による利潤の追求」から生まれることに気付かせる。</p> <p>○産業革命によって成立した自由な競争によって利益を追究していく経済を資本主義経済ということを押さえる。</p> <p>○資本主義経済の問題点は全て現在に残っているということを捉えさせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済的な格差は現代でもある。</li> <li>2 資源を輸入する</li> <li>3 ブラック企業</li> <li>4 産業革命から地球の平均気温は1.2度上昇している。 (2100年には4度以上?)</li> </ol>	<p>現在の社会との関連を表現している。 (単元授業設計シート・ワークシート)</p>
--	--	---

<p><b>6 本時のまとめ(5分)</b></p> <p>○単元授業設計シートに本時のまとめ、単元を貫く問いとの関わりを記入する。</p>	<p>○机間指導を行い、期待する生徒の振り返りに近い記述をしている生徒に最後発表させ、全体で交流させる。</p>	
<p style="text-align: center;">「期待する生徒のまとめ例」</p> <p>産業革命の進展による資本主義経済の成立により、利益追求のための長時間労働や地球環境問題、資本家と労働者の経済的格差、過剰な市場の拡大を生んでしまった。市場の拡大がペリーが日本に来た一つの要因だったかもしれない。また、これらの資本主義経済の問題は現代にも残っている。</p>		